

はじめに

メディアセンターのレポート提出システムは、WWW ブラウザを通して、レポートの出題／閲覧／採点／集計（教官の作業）、レポートの提出／提出確認（学生の作業）等を行うことができるシステムです。

このシステムは、レポートの設定／提出／閲覧／集計／採点を支援し、それに関係する労力を軽減させることを目的に開発されました。今までの紙で提出するレポートの形態では、学生はレポートを決められた場所まで持って行かなければなりません。また、大人数の授業の場合、提出されたレポートを採点し、集計することは教官にとって大変な負担となっていました。

このシステムはそういった教官／学生の労力を少しでも軽減し、レポートに関わる一連の業務を円滑にさせる事を目的としています。例えばこのシステムを使う事によって、学生はネットワークにつながったパソコンからいつでもどこからでもレポート課題の内容を確認したり、レポートの提出を行うことができます。

一方教官は、レポートを設定しておきさえすれば、学生から提出されるレポートは全て自動的にシステムが受け取ってくれて、しかもその際、「受け取りました」というメール（受領証）が学生に自動的に返送されます。このおかげで、学生の「私のレポー

トは届いているでしょうか」という問い合わせに手を煩わせることもありません。さらに、受け取ったレポートはブラウザから確認したり、採点することができます。また、模範的なレポートを他の学生に閲覧できるようにする機能、特定のレポートに対しコメントを与える機能もあります。さらに、半期の講義の中で出されたレポートをひっくるめて表にし、閲覧できる機能もあります（この表は Excel 等で編集可能な形式でダウンロードできます）。

レポート提出システムは、メディアセンターの個人アカウント A を持っている方なら、手続きなくどなたでも利用することができます。以下の URL がレポート提出システムの入り口になっています。

<http://report.riise.hiroshima-u.ac.jp>

また、レポート提出システムのオンラインマニュアルが

教官用：

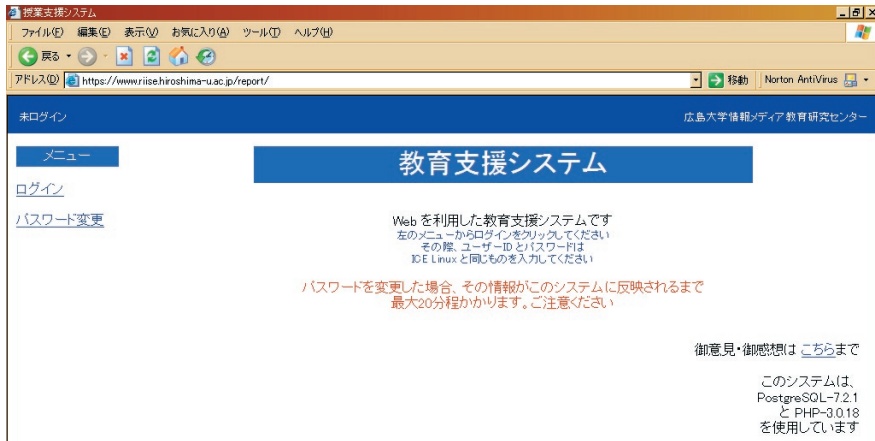
<http://www.vu.hiroshima-u.ac.jp/report/man-kyokan/>

学生用：

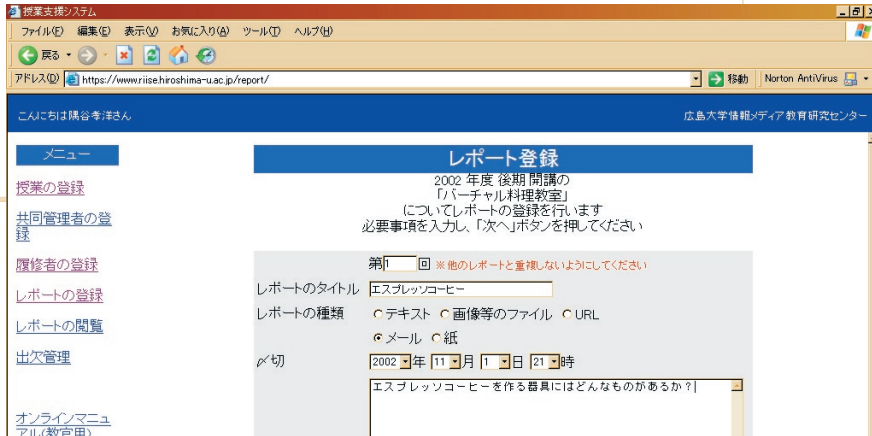
<http://www.vu.hiroshima-u.ac.jp/report/man-gakusei/>

に用意されています。

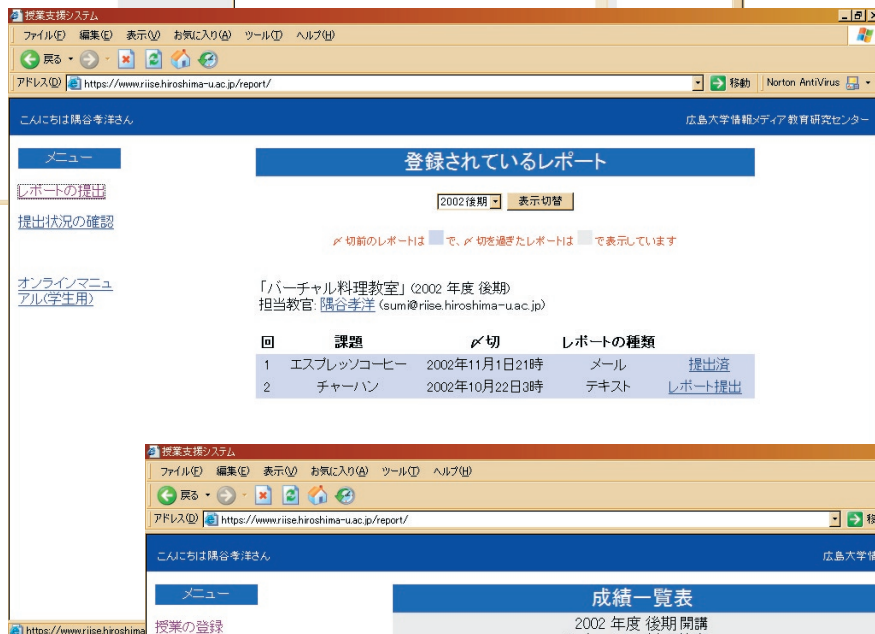




ログイン画面



レポート課題設定画面 (教官)



レポート一覧画面 (学生)



レポート成績一覧画面 (教官)

システムの概要 (1)

レポート提出システムは、WWW サーバ上で動作するプログラムとして作られています。図1に示すように、教官はWWWブラウザを通してシステムを利用します。学生もWWWブラウザを通して利用できますが、教官の設定によっては電子メールを使ってレポートを提出することになります。

システムの利用をはじめるとき、メディアセンターのアカウントを使って本人の確認(ログイン)を行います。レポート提出システムには以下の三つのモードがあり、どのモードを利用することができるかは、ログインした利用者の、システムへの登録状況で変わってきます。

1. 教官モード

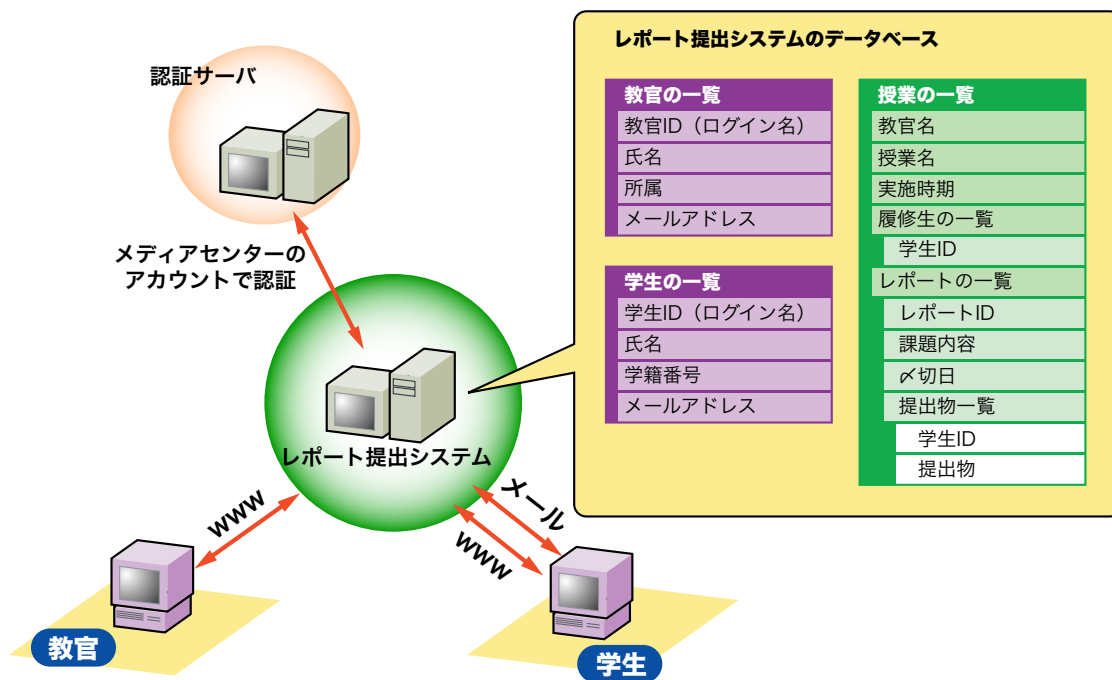
システムに教官として登録されている利用者(非常勤講師、教務補佐員等も教官として登録されています)は、教官モードを利用することができます。教官モードでは授業を新しく作成することができます。さらに、自分が作成した授業のそれぞれに対し、共同管理者の登録、履修者の登録、レポートの登録、提出されたレポートの閲覧/採点などを行います。

2. 共同管理者モード

システムに登録されている授業のいずれかで「共同管理者」として指定されている利用者は、共同管理者モードを利用することができます。共同管理者モードでは、履修者の登録、レポートの登録、提出されたレポートの閲覧/採点などを行うことができます。

3. 学生モード

学生モードは誰でも利用することができます。学生モードでできることは、自分が登録されている授業に対して、レポートの提出、提出状況の確認を行うことだけです。ログインした利用者がどの授業にも学生として登録されていない場合、このモードでは何もすることができません。



[注意事項]

システムの利用をはじめるときにメディアセンターのアカウントを使って本人の確認を行いますので、メディアセンターのアカウントを持っていないと利用することはできません。メディアセンターのアカウントは、学部生は全員持っていますが、学部生以外の学生や教官等は本人の申請がないと発行されません。レポート提出システムを利用する際に、教官がアカウントの発行を受けていなくてはならないのはもちろん、学部生以外の学生が履修している場合はそれらの学生にアカウントの発行を受けるように指導して下さい。また、アカウントを持っていてもパスワードを忘れてしまっている場合はシステムを利用することができません。パスワードを忘れてしまった場合は、メディアセンターで仮パスワードの発行を受けることができます。

システムの概要 (2)

レポート提出システムで扱えるレポート形式

● テキスト

学生はWWWブラウザ上のテキストフィールドにレポート内容を記入します。教官は WWW ブラウザ上でその内容を直接閲覧します。

● 画像などのファイル

学生はパソコンから、画像やワープロ書類などのファイルをシステムにアップロードします。教官はJPEG 画像などブラウザで直接表示できるものはその場で確認できますが、それ以外のはパソコンにダウンロードして内容を見ることになります。

● URL

学生はWWWページを作成し、その URL をシステムに記入します。教官はハイパーリンクとして表示されたWWWページを閲覧し、評価します。

● メール

学生は特定のメールアドレスにメールを送ることによりレポートを提出します。教官は WWW ブラウザ上でその内容を直接閲覧します。

● 紙

学生は紙でレポートを提出します。教官はその評価やコメントをシステムを使って入力します。

下図に、ある一つの授業に注目した場合の、一学期を通しての作業の流れを示します。この図は上から下へ時間を追って、教官と学生がシステムに対して行う作業を示しています。

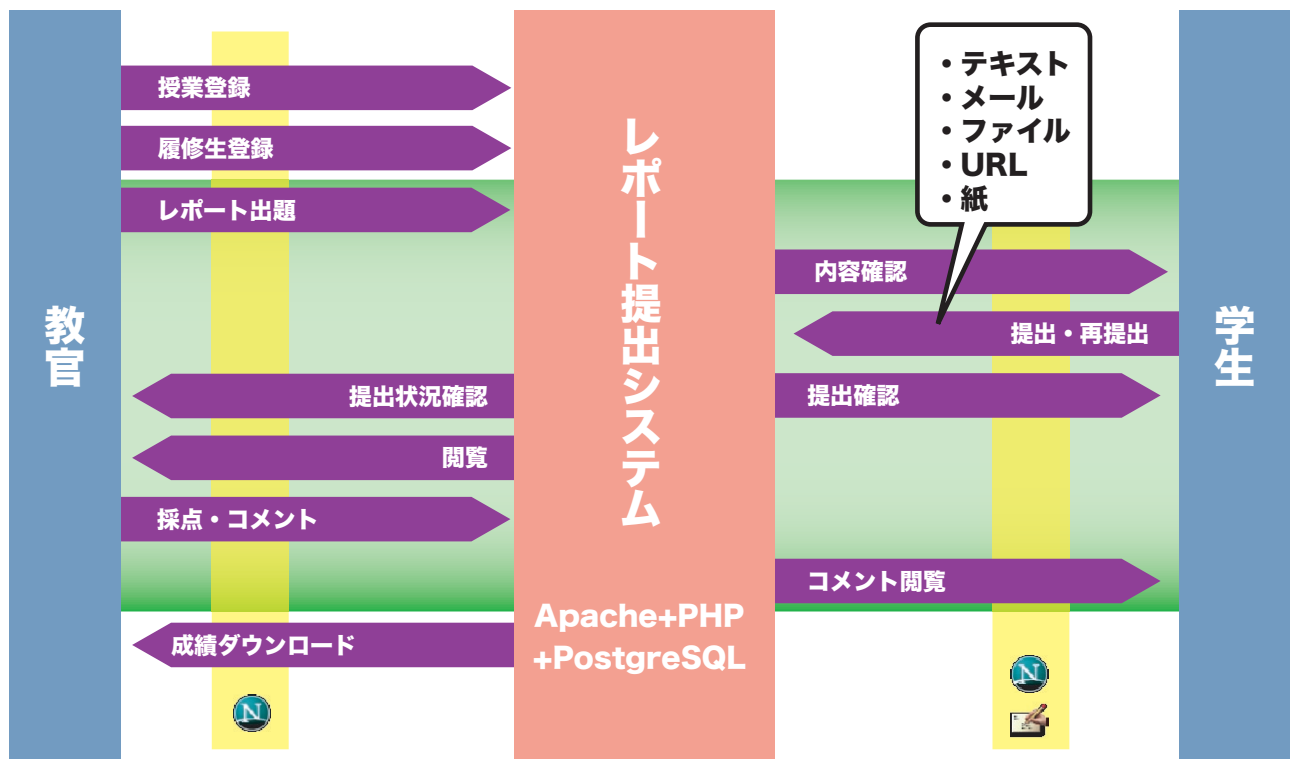
前述したように、教官は授業の登録から最終的な成績ダウンロードまでのすべてを WWW ブラウザを通して行います。一方学生は、課されたレポートの形式によって、電子メールもしくは WWW ブラウザを通して作業を行います。

レポート提出システムで利用できるレポートの種類は右表に示す五種類です。

テキスト形式とメール形式のレポートは、学生が提出する方法が異なるだけで教官からはほとんど同じに見えます。扱えるデータ形式はフラットテキストだけですので、図表や数式等を含むレポートを提出させることは難しいです。

図表や数式を含むレポートを作成させたい場合は、ファイル形式のレポートを利用することになります。例えば特定のファイル形式 (PDF, Word 等) を指定して、学生にファイルを提出させることができます。URL 形式のレポートの場合は、学生はレポートを WWW ページとして作成することになります。WWW ページなのである程度の表現力はあるのですが、作成する側に相応のスキルが必要であることに注意が必要です。

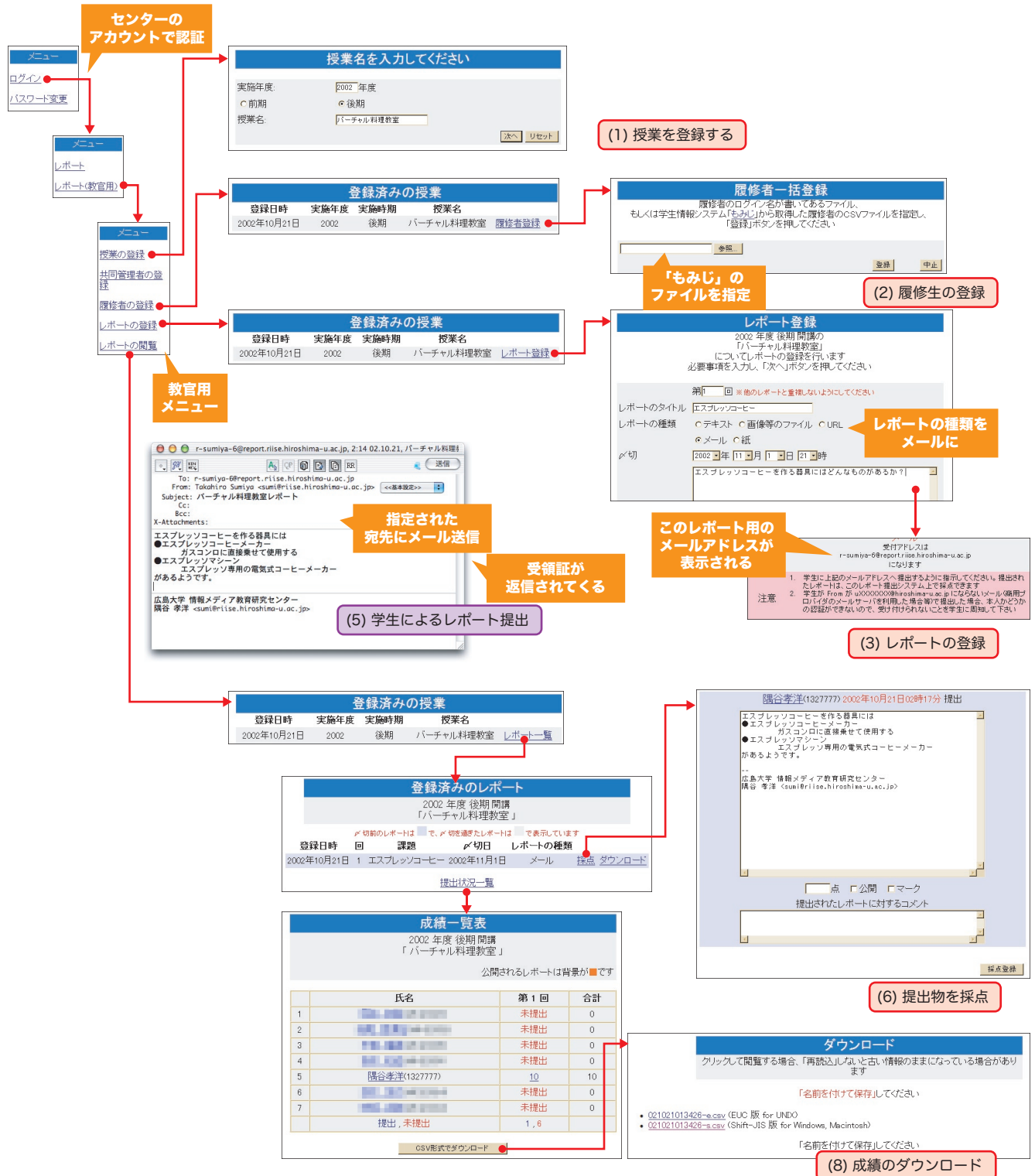
従来と同様に紙で提出させる紙形式というレポート形式も用意しています。この形式を使うメリットは、コメント機能を使って学生とのやり取りができるということにあります。提出されたレポートに対して教官がコメントをつけておくと、学生はいつでもそれを読むことができます。



想定される利用シナリオ 1：メール形式のレポートを活用する

レポートの形式は、すべてメール形式とします。提出されたレポートを、教官は WWW ブラウザ上で閲覧し、評価・採点をします。学生はレポート提出システムの存在を意識する必要はありません。授業の初めから終わりまでの流れは以下のようになります。

- (1) 授業を登録する
- (2) 履修生を登録する
- (3) メール形式のレポートを設定する。レポートごとに固有のメールアドレスが作成される。
- (4) 学生に、レポート内容とレポート固有のメールアドレスを周知させる。
- (5) 学生はレポートを電子メールで提出する。この際、学生には電子メールで受領証が返送される。
- (6) 提出物を採点する。
- (7) (3)～(6) をレポートの回数だけ繰り返す。
- (8) 成績 (採点結果) をダウンロードする



想定されるシナリオ 2： 学生にもレポート提出システムを利用させ、提出レポートに対するコメントを返す

レポートの形式はテキスト形式（メール形式などその他の形式でもよい）とします。現段階ではレポートの添削機能はありませんが、簡単なコメントをつけて返してあげたい場合等には有効です。従来こうしたフィードバックを行おうとした場合、返すのにも授業時間を割かねばなりませんでしたが、何回も再提出させるのは面倒でした。授業の初めから終わりまでの流れは以下のようになります。

- (1) 授業を登録する
- (2) 履修生を登録する
- (3) テキスト形式のレポートを設定する。
- (4) 学生に、レポートがある旨を告げる。
- (5) 学生は、レポート提出システムにログインし、レポート内容を確認する。
- (6) 学生は、レポート提出システムを使って WWW ブラウザ上でレポートを作成、提出する。
- (7) レポートを採点し、コメントをつける。
- (8) 学生は、レポート提出システムにログインし、自分のレポートに対するコメントを見る。必要であれば、レポートを修正し、再提出する。
- (9) (3)～(9) をレポートの回数だけ繰り返す。
- (10) 採点結果をダウンロードする

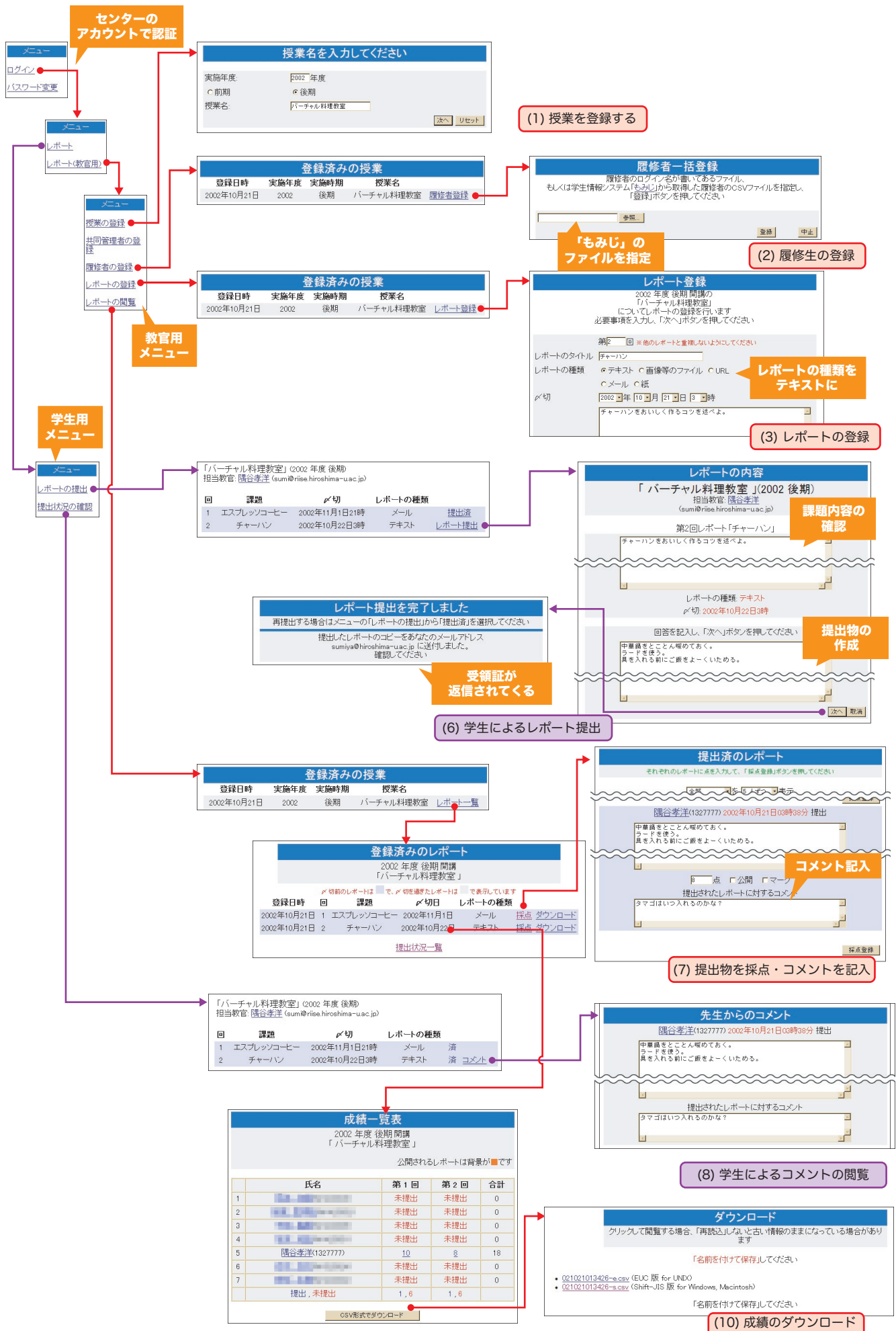
次ページに流れ図

レポート提出システムご利用上の注意事項

1. **【サービスの位置付け】** 情報メディア教育研究センター（以下メディアセンター）の提供するレポート提出システムは、ネットワークシステムを利用した授業支援に関する研究の一貫として開発しています。将来的にはセンターの公式なサービスとしての運用を視野にいれておりますが、現段階の位置付けは試験運用となっております。
2. **【利用条件】** レポート提出システムを利用できるのは、メディアセンターの個人アカウント A を所有している教官と学生です。非常勤講師の方もメディアセンターの個人アカウント A を取得されれば利用可能です。
3. **【データ保全】** レポート提出システムは、メディアセンター内部で一年間の試験運用を行っており十分実用可能なものである事を確認しています。しかし、プログラム上の不具合の存在の可能性はゼロではありません。不具合が発覚した場合には全力をもってその修正にあたりますが、不具合によって喪失したデータの復元には如何なる責任も負うことができません。
また、通常運用におけるデータ保全には細心の注意もつてあっておりますが、天災など不慮の事故によりデータ

喪失が起こった場合には、喪失データの復元に如何なる責任も負うことができません。

4. **【サービスの一時停止】** サーバのメンテナンス、プログラムのバージョンアップ等により、サービスを一時停止することがあります。その際には
メディアセンターのホームページ
<http://www.media.hiroshima-u.ac.jp/>
メディア活用系のホームページ
<http://www.riise.hiroshima-u.ac.jp/>
等で告知致します。また、メディアセンターの「お知らせメーリングリスト」に登録して頂くと、レポート管理システムの一時停止のお知らせを電子メールでお届けします。（その他のお知らせも含まれますが）「お知らせメーリングリスト」への登録は、下記から行うことができます。
「お知らせメーリングリスト」への登録
<https://www.media.hiroshima-u.ac.jp/service/ml-announce.html>
5. **【問い合わせ】** システムに関する問い合わせ、コメントは
wbt-adm@riise.hiroshima-u.ac.jp
までお送り下さい。



付図：レポート提出システムのコマンド体系

